ブラジルポルトガル語において意味変化を起こした日本語起源借用語

谷口　ナタリア愛香

1.　研究背景

南米に位置するブラジル連邦共和国（以下、ブラジル）は移民の国として知られている。その歴史について、簡単に触れると、1500年にポルトガルに発見され、先住民「インディオ」と交流を始め、1570年代からはアフリカのギニア地方やアンゴラ等から黒人奴隷制度で大量の移民を受け入れた。しかし、それに対して、1888年に奴隷解放の動きがあり、黒人奴隷制度が廃止された。このことから、新たな労働力が必要となり、南ヨーロッパを中心としたスペイン、イタリア、ドイツ、スイス等からの移民を導入した。日本人の移住が始まったのは1908年に日本政府が移住政策を採用した年であった(Mello、2011)。

このように、ブラジルではさまざまな形で移民が絶えず存在していた。換言すれば、ブラジルでは多くの言語と接触してきたという歴史があるのである。したがって、言語接触といえば、ピジンや混合言語がすぐに思いつくのだが、ブラジルにおいては日本語とポルトガル語に関して、19世紀横浜で行われた開港ピジン（ロング、1999）のような言語現象はブラジルの歴史ではみられないと言える[1]。ブラジルにおける日本語に目を向けてみると、第2次世界大戦時による国交断絶と日本語禁止令があったものの、ブラジルに永住した日系人によって、現在までも部分的ではあるが使われている。なお、現在の日系コミュニティでは、多くの人がポルトガル語のモノリンガル化しているという指摘がある（工藤・森2015）。

このような言語的背景を説明すると、一見ブラジルポルトガル語に、日本語の影響が一切ないようにも見えるかもしれない。しかし、実はポルトガル語の中には、日本語から借用された語がいくつも使用されている。つまり、日本語の影響を受けているということである。

そこで本稿では、インターネット検索とポルトガル語辞典“Michaelis”と“Houaiss”に記載されている計290語の意味に注目し、意味変化（意味縮小、意味拡張）が見られる日本語起源借用語（Japanese Origin Loanword、以下JOL）を分析した。本稿では、2節で先行研究、3節でJOLの選定方法、4節で意味変化した語について言及する。

2.　ポルトガル語におけるJOLに関する先行研究

河野(2000)では、借用語に関して在日ブラジルの日本人移民及びその子孫が用いる日本語「コロニア語」、ポルトガル語からの多くの借用語の特徴を始め、在日ブラジル人のポルトガル語で見られる日本語借用語（デカセギ語）と新聞記事の用例を基にして、定着したJOLの過程の分析を行っている。久山(2000)では、日系移民一世のポ

[1] 以下、ポルトガル語はすべて、ブラジルポルトガル語という意味で用いる。

ルトガル語の特徴（音声音韻的、形態的）を分析している。Takano(2013)では、ブラジルコミュニティでのポルトガル語と日本語の談話分析をテーマにし、日系人が使用するポルトガル語借用語と文法的レベル、いわゆるコードスイッチング（code switching）の問題点を指摘している。一方、Richter&Agostinho(2017)は、ブラジルコーパスにみられるJOLをテーマとし、ポルトガル語と日本語の発音を比較して音声音韻的な分析を行っている。結果として、単語リストの中の90%が日本語のアクセントと一致していないことを明らかにしている。しかし、音声学的な分析は行っているものの、JOLの意味論的な分析は行っていない。

以上のように、ポルトガル語におけるJOLに関する研究は、主に日系人が使用するJOLが扱われているということ、日系人と非日系人のJOLをどちらも分析した研究も音声学的な研究しかないということがわかった。そこで、本稿では、日系人と非日系人を区別せず、ポルトガル語におけるJOLの使用実態に着目し、その意味変化について分析を行う。

3. 本研究で分析するJOLの選定基準

本節では、本稿で分析するJOLの選定基準を概説する。ブラジルで見られるJOLが全て意味変化しているとは限らない。そのため第一に、JOLを先行研究（Kono、1996）“Empréstimo linguísticos do japonês no português do Brasil”やポルトガル語辞典“Michaelis”と“Houaiss”、インターネット検索の「Do chá ao jiu-jitsu: as influências japonesas na cultura do Brasil」（筆者訳：お茶から柔術へ―ブラジル文化に与える日本の影響）から収集した。これらから得られたJOLは全部で290語であった。本稿では、収集した290単語の中で①大きな意味変化が見られるもの、②現在も使用されているとポルトガル語母語話者である筆者の内省から判断したものを選定し、次のJOLを分析対象とした。

“decasségui”（出稼ぎ）；“lámen”（ラーメン）；“onigiri”（おにぎり）；“ofurô”（お風呂）；“otaku”（オタク）；“temaki”（手巻き）；“quimono”（着物）；“sushi”（寿司）；“gueixa”（芸者）；“tatâme”（畳）；“futon”（布団）；“camicase”（神風）；“haraquiri”（腹切り）；“tsunami”（津波）

4. 分析結果

3節で取り上げたJOLを意味推移（4.1）、意味縮小（4.2）、意味拡張（4.3）との観点からその意味変化について分析する。なお、日本語の意味は、日本語ジャパンナレッジLibと日本語母語話者によるものである[2]。

[2] 日本語母語話者の年齢は18歳から65歳で、出身地は北海道、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県、長崎県、熊本県、鹿児島県である。

4.1　意味推移が起きている JOL

ロング・髙城（2019）によれば、マーシャル語辞典に掲載されている JOL は全部で 117 語あり、そのうち、意味縮小が起きているものは 9 語、意味拡張が起きている者は 21 語、意味推移が起きているものは 38 語であったと述べられている。つまり、約 32.5%が意味推移を起こしていた。それに対して、本稿で収集した 290 語のうち、意味推移していたものは 1 語“ofurô”（お風呂）であった。この要因については、現状では日系人の存在が鍵となっていると推察している。つまり、日本語がわかる日系人によって、「変な」使い方をしていると修正されるからである。ただし、これは推測の域を出ていないため、なぜ意味推移が起こりにくいのかも今後考察していきたい。

【ofurô】

日本で「お風呂」と言えば、浴室、つまり入浴をする場所のことを指す。また、「お風呂に浸かる」という使い方で、浴槽（プラスチック、ステンレス等）の意味もある。他にも、温泉、銭湯、露天風呂、五右衛門風呂の意味合いも含まれている。

一方、ブラジルは亜熱帯と熱帯地域が多い為、お風呂で体を温める習慣はなく、さらに温泉や銭湯は存在しない。また、サンパウロ市のような大都会でさえ水不足の問題もたびたび起こるため、市民は日々節水している。つまり、日本のように豊富に水を使用できるという背景はない。では、ポルトガル語の“ofurô”とはどのような意味合いで使用されているのだろうか。第一に、自宅にある入浴をする場所という意味では日本語と変わらないが、ブラジルで使用する“ofurô”は、豪華なイメージを持つ木材で作られたバスタブのことを指す。いわゆる金満家の自宅のみに設置されているものというイメージである。第二に、スパのような美容クリニックで設置されている同じく木材で作られたバスタブのことを指す。日本でも浴槽を指す場合があるが、“ofurô”の場合、主に美容クリニックで使用されるものに限る。

このような 2 点の意味から考えると、ポルトガル語の“ofurô”は日本のように身近なものではなく、特別な時に限られているという特徴がある。さらに、素材も木材で作られたバスタブと特定されている。つまり、意味推移が起きているのである。

4.2　意味縮小が起きている JOL

では、実際に意味縮小が起きている JOL をみていく。意味縮小が起きている JOL は、“decasségui”（出稼ぎ）、“lámen”（ラーメン）、“onigiri”（おにぎり）、“otaku”（オタク）があった。以下で順に概説する。

【decasségui】

日本で「出稼ぎ」と言えば、ある期間、家を離れてよその土地や国に行って働くことである。

ブラジルでは、日本に行って仕事をする人のことを指す。当初、日系ブラジル人が 1990 年の日本の出入国管理及び難民認定法の改定により、出稼ぎに出ていた。しかし、

このような日本への出稼ぎは次第に非日系人もするようになった。このことから、当初は日本に働きに行く日系人のみが“decasségui”と言われていたが、日本に働きに行く非日系人に対しても現在では“decasségui”と言われるようになったのである。

このように、“decasségui”は、日本に行って仕事する人のことを指している。つまり、日本語では、国内外に行って働くことや人のことを意味するが、ポルトガル語では、日本という特定の国に限定され、かつ、働きに行く人のことを指している。つまり“decasségui”は意味縮小を起こしているのである。

【lámen】

中国語起源借用語である「ラーメン」は日本を経由して、ブラジルで使用されるようになった。つまり、二次借用語である。中国では細く糸状に引き伸ばして作ったものが、辞書的な意味での“拉面”である。言い換えれば、中国では麺のみを指すということである。一方、日本語では中華麺と醤油や豚骨などのスープと具（主に、チャーシュー、ネギ、メンマなど）を合わせたものを指す。また、ラーメンはカップラーメンやインスタントラーメンも含まれる。つまり、日本語においてすでに意味変化が起きているということである。なお、中国語母語話者に確認したところ、現在は中国語の“拉面”も日本とほぼ同じ意味で使われているというが、カップラーメンのことは“泡面”といい、“拉面”にカップラーメンの意味はないという。

一方、ブラジルで“lámen”といわれると、普段使用しない食材（鰹節、海苔、もやし、味噌等）で作られているため、高級でグルメな料理というのをイメージする。また、ポルトガル語ではインスタントラーメンのことは、“lámen”とは言わない。インスタントラーメンは、ブランド名の“Miojo”という名称で呼ばれ“lámen”と言う人は少ない。したがって、ポルトガル語の“lámen”は日本語よりも意味が縮小しているのである[3]。

【onigiri】

日本で「おにぎり」と言えば、非常に身近な食べ物である。自宅で手軽に作れるだけでなく、コンビニやスーパーマーケットで手頃な価格で買える食べ物でもある。

では、ブラジルの“onigiri”をみていく。まず、ブラジルでは、米の種類も炊き方も異なっているため、炊いた米を手で握ることは不可能である。また、日本食品市場では日本の米が販売されているが、一般の米よりも値段が高い。日本の米を買ったとしても、先述の通り、炊き方が異なるため、SNS や Youtube 等で“onigiri”を作るための米の炊き方と握り方の動画配信さえもある（図 1）。

日本語でおにぎりと言った場合、コンビニで売られているような海苔が全体に巻かれているもの、三角形の一辺に少しだけ巻かれているものがある。また、俵型と沖縄

[3] “Miojo”とは明星食品株式会社からの由来である。

流（ポークたまごおにぎり）のものもおにぎりと言える。つまり、日本で認めるおにぎりとは形、味付け、素材が様々である。

一方で、“onigiri”という JOL は、図 1 のように三角形の一辺に少しだけ海苔が巻かれているもののみを指す。また、味に関してはおにぎりに入れる具材（魚、昆布等）はブラジル人間で馴染んでいないことで、“onigiri”はお米に海苔である場合が多い。

このように、ブラジルの“onigiri”は完全な意味縮小とは言えないにしても、日本語の「おにぎり」に比べれば限られた形状と味付けになっていることは間違いないのである。

図1 「Como fazer onigiri[4]」（筆者訳：おにぎりの作り方）

【otaku】

日本で「オタク」と言えば、趣味等に凝っている若者という俗語であったり、あることに詳しい知識を持ち過度に熱中する人であったりする。例えば、アニメオタク、漫画オタクだけでなく、鉄道オタク、家電オタクといった使い方をする。また、第三者とその家庭という意味もある。

ブラジルの“otaku”は主にアニメ、漫画、ゲームに熱中する人という意味でのみ使われる。すなわち、“otaku”という JOL は限られた意味でしか使用されない。他の国でもしばしばこの意味で「オタク」が借用されているが、ブラジルでは 20 世紀の終わりごろに一般化した。また、「第三者とその家庭」という「お宅」の意味は見られないことから、意味縮小が起きているのである。

以上のように、意味縮小が起こった JOL をみてきた。意味縮小が起こっているのは、日本語から借用する際に、ブラジルの文化に合わせているために、元の意味の一部のみが使われるようになったからだと考えられる。

4.3 意味拡張が起きている JOL

次に意味拡張が起きている JOL を取り上げる。意味拡張がおきているものには“temaki”（手巻き）、“sushi”（寿司）、“quimono”（着物）、“gueixa”（芸者）、“tatâme”（畳）、“futon”（布団）、“camicase”（神風）、“haraquiri”（腹切り）、“tsunami”（津波）があった。以下で、順に説明する。

---

[4] https://www.youtube.com/watch?v=G13_ZriC66A　1 月 15 日閲覧

【temaki】

日本で「手巻き」と言えば、機械や道具を使わずに手で巻く物である。特に日本で「手巻き」と聞くと、手巻き寿司がイメージされやすいだろう。

一方、ブラジルで存在する“temaki”は手で巻く寿司、つまり、日本と同じ「手巻き」の意味もある。手軽で食べられると同時にヘルシーであるため、ブラジルでも人気がある。しかし、ブラジルの“temaki”は日本の手巻き寿司とは異なるものもある。ブラジルでは酢飯にサーモンとクリームチーズを海苔で巻いたものを特に“temaki”という。また、2017 年に発売された“temaki”はコップに移したものがあり、これは“Temaki no copo”（カップに入った手巻き）と呼ばれる（図 4）。

このように、“temaki”という JOL は特定の具材を使用したものになっており、さらに手で巻かないものまで“temaki”と言うようになっていることから意味拡張が起きていると考えられる。

図2 “temaki no copo”（カップに入った手巻き[5]）

【sushi】

日本で「寿司」と言えば、酢飯に魚介類などの具を乗せ握ったものである（握り寿司）。この「寿司」にはさまざまな種類があり、馴鮨、早鮨、一夜鮨、ちらし鮨、蒸鮨、握鮨などもある。

一方、ブラジルでは主に巻き寿司と握り寿司が店などで売られている。ただし、握り寿司は生魚が乗せられるため、「寿司」ではなく「刺身」と混同している人も一定数いる。また、生魚を扱うには衛生管理用の設備が必要である。その設備費や維持費により、生魚を主に使用しない巻き寿司のほうが利益をあげやすいため、店に並びやすく、知名度が高い。このように、ブラジルでみられる“sushi”とは「巻き寿司」のことを指すのである。

なお、稲荷寿司、握り寿司等もブラジルで見られるが、アメリカの影響で作り方や素材が日本と異なっている。いくつか日本では考えられないような寿司もあるため、

[5] https://whatsmenu.com.br/joysushihouse　2 月 2 日閲覧

ここで紹介しておく。まずは図3で示しているように揚げた巻き寿司“Hot Roll”がある。日本の握り寿司とは違い、巻き寿司を作った後、粉で包み、天麩羅のように揚げて提供される。もう一つの“sushi”は“sushi doce”（甘い巻き寿司）である（図4）。ブラジル人は甘い物を好み、寿司にチョコレートやフルーツを加えてアレンジしたものも“sushi”と呼んでいる。

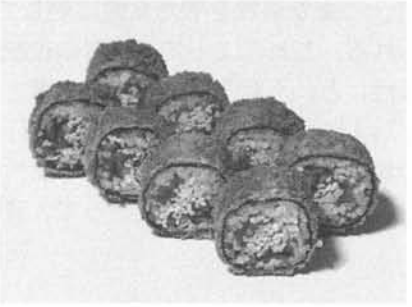

図3　ブラジルの揚げ寿司“Hot Roll”[6]

図4　“sushi doce”（甘寿司[7]）

このように、ブラジルの“sushi”は日本で見られる様々な寿司の種類の中で巻き寿司がプロトタイプとなっている。さらに、“sushi”の作り方も先述のような2種類の巻き寿司もある。要するに、ブラジルでは寿司の種類の中の一種類「巻き寿司」が主に販売されているものの、作り方や材料によって種類が増加したころから意味拡張が起こっているみられる。

【gueixa】

日本で「芸者」と言えば、「芸達者な人で歌舞・音曲を行って酒宴の席に興を添えることを職業とする女性」のことである。また、「酒席に興を添えるのを業とする女性」である。

---

[6] https://www.bakenroll.az/en/dish/california-hot-sushi-roll　2月2日閲覧

[7] https://www.youtube.com/watch?v=VHVSfZwdW5s　2月2日閲覧

一方、ブラジルで使用されている“gueixa”は、日本語と同じ意味に加え、「売春する女性」や単に「（日本の伝統的な）着物を着た女性」のことを示している。日系人はブラジル社会の中でマイノリティーグループであるため、着物を着る機会（成人式、祭り、結婚式など）はほとんどない。それゆえ、着物を着る際に“gueixa”と呼ばれるのである。これは、“gueixa”という JOL が映画『祇園の姉妹』（1936 年）、*“Geisha Girl”*(1952 年)、『さゆり』（2005 年）等を通じて、「芸者」本来の意味ではなく、その外見、見た目、つまり着物を着た女性に対して“gueixa”が使用されるようになったからと考えられる。これによって、芸者の役割が誤解され、「男の相手」を連想し、「売春する女性」という意味にもなったと考えられる。

このように、“gueixa”は芸達者な人で歌舞・音曲を行って酒宴の席に興を添えることを職業とする女性の意味合いに加え、「売春する女性」と「（日本の伝統的な）着物姿の女性」の意味で使用されている。したがって、意味拡張が起きているのである。

【quimono】

日本で「着物」と言えば、体に着るものの総称ではあるが、特に、イメージするのは、伝統的な和服や振袖である。

一方、ブラジルでは日本の着物も存在はするが、“gueixa”で述べたように着物を着る機会がほとんどないため、非常に珍しいものである。ポルトガル語の“quimono”は武道で着る道着と夏用の薄いカーディガンという意味合いである（図 5）。日本では、空手や柔道の際に着るものは空手着、柔道着と言うが、ポルトガル語ではその区別がなく、どちらも“quimono”と言われる。また、夏に女性が着る“quimono”は長袖かつ丈が長いのが特徴である。

このように、ブラジルで使用する“quimono”は日本の伝統的な服装の意味に加え、武道の道着と女性向けのアレンジした上着の意味合いである。つまり、これも意味拡張が起きているのである。

図5　ブラジルの“quimono[8]”

[8] https://www.altoastral.com.br/beleza-e-moda/quimono-o-que-e-como-usar-no-verao/　2 月 2 日閲覧

【tatâme】

日本で「畳」と言えば、和室の床に敷くものである。

ブラジルでは床に畳を使用する家は存在しない。また、床で就寝することや寛ぐことはブラジル人にとっては習慣的なことではない。さらに、ブラジルは気温と湿度が高いため、藺草で作った畳はカビが生えやすく、メンテナンスも困難である。ブラジルで畳が見られるのは観光スポット（神社、庭園）や、日本文化を代表する展示室、高級レストランのみである。

このように、畳は“tatâme”として日本語と同じ意味もある一方で、別の意味もある。それは、柔道や空手のような武道で使用するスポーツ用のマットという意味である。ゴム製の「マット」は手頃な価格で購入でき、衝撃も吸収するため、多くの武道で使われている。現在では、日本の伝統的な武道のみならず、ボクシングのフロアマットも“tatâme”と言われている。さらに、道場やジムに限らず、家庭でも“tatâme”は存在する。例えば、図6で示しているような子供向けのジョイントマットも“tatâme”なのである。

図6　“tatâme”（子供向けのジョイントマット[9]）

このように、“tatâme”というJOLは床に敷く藺草の畳のみならず、スポーツ用の“tatâme”、子供用の“tatâme”の意味合いで使用されている。したがって、意味拡張が起きているのである。

【futon】

日本で「布団」と言えば、掛布団と敷布団をセットにした寝具である。

ブラジルでは床に布団を敷くという習慣がなく、ベッドで寝る。したがって、ほとんど床で過ごす習慣はない。それゆえ、「布団をかけて寝る」とは言えるが、「布団を敷いて寝る」という言い方はできない。また、敷布団は“colchonete”と言う。つま

[9] Tapete Em Eva Infantil Bebe Engatinhar Brincar Coloridas Kithttps://www.levevita.net.br/MLB-1679159091-tapete-em-eva-infantil-bebe-engatinhar-brincar-coloridas-kit-_JM　2月2日閲覧

り、ポルトガル語においては、敷布団と掛布団は別物で、掛布団を“futon”というのである。

さらに、“futon”には別の意味もある。ブラジルの北部は亜熱帯地域で、南部は熱帯地域である。それによって、そもそも掛布団自体があまり使用されない。そこで、敷布団を折りたたんだソファを“futon”として使用されている（図7）。特にこれは、“sofá futon（ソファ布団）”と言われ、シンプルで座り心地の良い家具として人気となり、ブラジルで一般的なものになっている。

このように、ブラジルで使用する“futon”は掛布団と、図7の折りたたみ式ソファという意味がある。ブラジルの“futon”は日本のような意味がないとは言えないが、意味領域が拡がり、意味拡張が起きているのである。なお、本来掛布団の意味しかなかったにも関わらず、敷布団のソファをなぜ“futon”と言うのは考察の余地があるが、この点は別稿に譲ることとする。

図7　“sofá futon”（ソファ布団[10]）

【camicase】

日本で「神風」と言えば、主に三つの意味がある。①第二次世界大戦末期に現れた特別攻撃隊、②神が吹き起こす風で、特に元寇の際に吹いた激しい風、③大胆で人命を粗末にするたとえの三つである。

ブラジルは第二次世界大戦に連合国として参戦したが、日本のような特別攻撃隊は編成されなかった。また、歴史上で嵐もしくは強風によって敵から救われた出来事もない。したがって、①と②の意味はない。

ブラジルで最も使用されている“camicase”は③の意味で使用される。例を挙げると“fotografar em lugares perigosos, aquela pessoa é como um camicase（あの人は神風のように危険な場所で撮影する）”のような使い方である。危険を省みず目的を成し遂げる、いわば手段を選ばない人の意味である。また、“aquele time é um camicase（あの

[10] https://www.futonsofacama.com.br/sofa-cama-futon/sofa-cama-casal-futon-oriental-azul-turquesa-com-madeira-macica　Sofa Cama Casal Futon Oriental Azul Turquesa Com Madeira Maciça.　2月22日閲覧

サッカーチームは神風である）”というようにも使われる。この場合の意味は、あるチームが最も強いことを意味する。要するに、ポルトガル語で人が“camicase”であるといった場合、その人が神風のように必死あるいは決死の任務を受けるくらい目的を果たすことを意味する。一方、人ではなく、チームや団体であった場合、必死などのニュアンスは含まれず、特別な強さだけを意味する。

このように、ブラジルでの“camicase”は、風の意味がなく、大胆で人命を粗末にする行為から転じて、人に対する性格やチームの強さといった意味にもなっている。つまり、結果としては意味拡張が起きているということである。

【haraquiri】

日本で「腹切り」と言えば、武士の死罪あるいは、自ら腹を切って自殺することという意味がある。一般的には「切腹」と同様の意味である。

一方、ブラジルでは「切腹」ではなく、“haraquiri”という JOL が使用されている。ブラジルではキリスト教徒が大半を占め、自殺は宗教上で許されていない。つまり、“haraquiri”という JOL はブラジルの日常ではほぼ使用されていないのである。しかしながら、自殺の意味は大多数のポルトガル語母語話者は認識している。ポルトガル語での中心的な意味は、腹を切るような苦労をするという意味である。そしてそれが派生したいくつかの例がある。“haraquiri político”（政治的腹切り）これは辞任して公の生活を引退することの意味である。“Detesto o harakiri diante do público num espetáculo artístico”（コンサートで視聴者の前で腹切りをするのが大嫌い）ここでは、ミスを犯すという意味合いである。また、“o empreendimento começa a desabar, restando-lhe apenas o harakiri”（企業が崩壊し始め、腹切りが最後の手段となる）は、企業が破産するという意味合いで使われている。

このように、“haraquiri”の意味が「自殺する」に限らず、「辞任する」、「ミスを犯す」、「破産する」の意味合いとなり、意味拡張が起きている。

【tsunami】

日本で「津波」と言えば、地震や海底火山の噴火などによって生じる非常に波長の長い波のことである。また、「人が津波のように押し寄せる」といった比喩でも使用されている。

ブラジルでは日本のように津波に襲われることはないが、地震や火山によって引き起こされる津波と同じ意味もある。しかし、他の意味でも使用されている。ブラジルで最も使用されている“tsunami”は「暴れまくる人」という意味である。つまり、騒がしく津波のように激しく行動することから連想した意味である。また、大勢の人があるところに殺到する時にも「人の津波が来た」と言える。これは日本語と同じような使い方である。これ以外にも、“tsunami de informações”（情報の津波が来た）、“ser coberto por um tsunami de fumaça”（煙の津波に覆われた）のように、突然大量のものに飲み込まれるときにも使われる。

このように、“tsunami”というJOLは地震や海底火山の噴火などによって生じる長い波の意味に加え、「暴れまくる人」、「人が殺到する」、「突然大量のものに飲みこまれる」という比喩としても使われる。つまり、結果として意味拡張が起きていると考えられる。

意味拡張は以上の9つのJOLがあった。この9つからみると、ブラジルに元からあるものではなく、また、文化としてもなかったため、元の意味を保持しつつ、新たな意味で使われていることがわかった。

5. 本稿のまとめ

本稿では、290語のうち、意味変化した14単語のJOLを取り上げ、どのような特徴がみられるかを分析した。以下がその結果である。

1. 290語のうち、意味推移が起きたものは、今回収集したものの中で“ofurô”の1語だけにみられた。これは、ブラジルの生活に合わせているためだと考えられる。さらに、日系人の存在が関係している可能性があると考えられる。
2. 意味縮小したJOLは、“decasségui”（出稼ぎ）、“lámen”（ラーメン）、“onigiri”（おにぎり）、“otaku”（オタク）の4つであった。意味縮小が起こった理由として、日本語から借用する際に、日本文化の概念やイメージの一部だけが取り入れられていたと考えられる。意味縮小が起こった理由として、日本語から借用する際に、ブラジルの文化に合わせているためだと考えられる。
3. 意味拡張したJOLは“temaki”（手巻き）、“sushi”（寿司）、“gueixa”（芸者）、“quimono”（着物）、“tatâme”（畳）、“futon”（布団）、“camicase”（神風）、“haraquiri”（腹切り）、“tsunami”（津波）の9つであった。この9つからみると、ブラジルに元からあるものではなく、また、文化としてもなかったため、元の意味を保持しつつ、新たな意味や状況で使われていることが分かった。

本稿で取り上げた日本語とポルトガル語に異なるJOLの意味合いをまとめると以下の表1のようになる。

表1　日本語とポルトガル語に異なる意味合いのまとめ

日本語の起源語	ポルトガル語表記	日本語と異なるポルトガル語の意味
お風呂	“ofurô”	特別な時に限られる木製のバスタブ
出稼ぎ	“decasségui”	日本という特定の国に働きに行く人
ラーメン	“lámen”	カップラーメンやインスタントラーメン以外の和風の食材で作る高級な麺
お握り	“onigiri”	三角形の一辺に少しだけ海苔が巻かれている具材も使わない食べ物
お宅・オタク	“otaku”	アニメ、漫画、ゲームに熱中する人
手巻き	“temaki”	特定の具材を使用した手巻き 手で巻かず具材をコップに盛ったもの
寿司	“sushi”	甘い巻き寿司 揚げた巻き寿司
芸者	“gueixa”	着物を着た女性 男の相手 売春する女性
着物	“quimono”	武道の道着 女性向けのアレンジした上着
畳	“tatâme”	武道で使用するスポーツ用マット 子供向けのジョイントマット ボクシングのフロアマット
布団	“futon”	折りたたみ式ソファ
神風	“camicase”	大胆で人命を粗末にする行為 手段を選ばない人 （チームが）特別に強いこと
腹切り	“haraquiri”	自殺すること 辞任すること 破産すること ミスを犯すこと
津波	“tsunami”	突然大量のものに飲み込まれること 人が殺到すること 暴れまくる人

6.　今後の課題

本稿では、ブラジルで使用されるJOLを取り上げ、意味変化が起こったものを分析した。今後の課題として、ブラジルで実際にどのように使用されているかを分析する必要がある。そのために、新聞データベース（“Brazilian Digital Library”、“Globo”、

“Folha de Sao Paulo”）から上述した 14 単語の使用実態を分析したい。また、アンケートを用いて日系ブラジル人と非日系ブラジル人、日本人と比較しながら、その JOL に対する言語意識も分析していきたい。

参考文献

大橋理枝・ロング、ダニエル(2011)『日本語からたどる文化』放送大学教育振興会

河野彰(2000)「日本語と外国語との対照研究 VII」『日本語とポルトガル語(2)ブラジル人と日本人との接触場面』国立国語研究所、pp.53-92

近藤敏夫(2005)「日系ブラジル人の就労と生活」『社会学部論集』、第 40 号、佛教大学社会学部、pp.1-18

ジャパンナレッジ(2021)Lib-JapanKnowlegde LibNetAdvance Inc.　(2020 年 10 月 05 日最終閲覧 https://japanknowledge.com/library/)

ジョージ・ユール(2002)『現代言語学 20 章―ことばの科学』今井邦彦・中島平三訳、大修館書店

中野弘三(2015)「意味変化」『意味論（朝倉日英対照言語学シリーズ 6）』、pp.106-133.

久山恵(2000)「ブラジル日系一世の日本語におけるポルトガル語借用―その形態と運用―」『社会言語科学』第 3 巻、第 1 号、pp.4-16

ロング、ダニエル(1999)「地域言語としてのピジン・ジャパニーズ―文献に見られる 19 世紀開港場の接触言語―」『地域言語』11:1-10

ロング、ダニエル(2013)「言語接触と言語混交（第 9 章）」『多言語社会日本―その現状と課題―』、三元社、pp.133-145

ロング、ダニエル・髙城隆一(2019)「マーシャル語辞典掲載の日本語起源借用語と若年層の使用傾向―意味と発音の変化に注目して―」『人文学報』、第 515-7 号、pp.29-49

Mello Heliana (2011) *Os contatos linguísticos no Brasil*, UFMG.

Michaelis- Dicionário Brasileiro da Língua Portuguesa (2021) Editora Melhoramentos Ltda.　(2021 年 01 月 30 日最終閲覧 https://michaelis.uol.com.br/moderno-portugues/)

Richter Lara B.& Agostinho Ana L. (2017), *Adaptation of Japanese loanwords in Portuguese: a preliminary analysis Loanword Phonology and Morphology and Phonological Acquisition of L2/L3*.Revista Linguística-URFJ, 3-13, pp. 127 - 149.

Takano, Y. (2013).*Atlas sketch of the Distrito Federal Japanese-Brazilian speaking: semantic-lexical aspect*, Faculty of Philosophy, Letters and Human Sciences. University of Sao Paulo.

（たにぐち　なたりああいか・東京都立大学大学院博士前期課程）